

特集

愛した五浦

Photo:Kenji Aoyagi

浸食された岩肌と、太平洋の海原が織りなす
風光明媚な北茨城市五浦海岸。
日本美術界の指導者、美術運動家として
近代日本美術の発展に尽くした岡倉天心は、
この五浦の地をこよなく愛し、晩年、
思索と静養の場として長く過ごしています。

五浦のシンボル六角堂

歐米に追いつけ追い越せと、生活文化すべてが急激な西洋化へ向かって進んだ明治時代において、日本の優れた美術価値を認め、伝統美術の保護と近代日本美術發展の指導者として活躍したのが岡倉天心（1863～1913）です。天心は東京大学を卒業後、日本美術を高く評価し、海外に紹介したアーネスト・フェノロサの通訳を務めながら日本美術の価値を認め、後に東京美術学校（現・東京芸術大学）の創設、文化財保護や博物館の整備、さらには日本美術の海外への紹介といった多岐にわたる活躍をしています。

天心が五浦を初めて訪れたのは1903（明治36）年のこと。北茨城出身の日本画家、飛田周山によって案内され、五浦の海とそこに突き出た岩肌とが織りなす景勝を大変気に入り、2年後には自らの設計により六角堂を建築しています。そして、日本美術院（絵画）をここへ移し、横山大観、下村観山、菱田春草、木村武山が移住して新日本画の創作に向けて取り組んでいました。天心は六角堂を觀瀧亭と呼んで、ぶ岩に打ち寄せる波。天心の指導の下、五浦の画家たちによって生み出された多くの名作は、この地の風土が大きく影響しているかもしれません。



六角堂は東日本大震災による津波によって流失しましたが、昨年の4月に再建。天心が愛した風景の中に溶け込んでいる

ま!

大洗まいわい市場
oarai maiwai market

ホームページを
リニューアルしました！



家でまいわい！

まいわいセレクトのおいしいものが、家に居ながらにして買えるのはここだけ。



見える生産者

まいわいの農家さんの
動画付きメッセージで、生産者さんを
もっと身近に感じられます。



“旬”を伝える

Facebookページでは、
イベント、今日のお買い得品や、人気商品などの情報が手に入ります。

ガルパンやってます！



2012年大洗を舞台にしたアニメ
「ガールズ&パンツァー」。

大洗のガルパンイベント仕掛け人…
実はまいわい市場だったりします。

おかげさまで受賞いたしました！

「直売所甲子園2011」決勝審査^{#1} 審査員特別賞を受賞

2012年(第40回)毎日農業記録賞^{#2} 地区審査、水戸支局賞受賞

これもひとえに皆様の日頃の温かいご支援の賜物です。
ありがとうございます。

^{#1} 全国にある直売所の「日本一」を決める大会です。

^{#2} 「農」「食」「環境」への関心を高めるとともに、それに携わる人たち、これから携わろうとする人たちを応援する賞です。

大洗まいわい市場
oarai maiwai market

〒311-1305

茨城県東茨城郡大洗町中央11-2 大洗リゾートアウトレット内
TEL 029-266-1147

oarai-maiwai.com



(Photo:Takehiko Maekawa)

茨城県天心記念五浦美術館
茨城県北茨城市大津町椿2083
TEL.0293-46-5311
開館時間／9:30～17:00(入館16:30まで)
休館日／月曜日(祝日・振替休日の場合は翌日)、12/29～1/1
入館料／企画展 一般600円、高大生 400円、小中生200円(H25年度)
<http://www.tenshin.museum.ibk.ed.jp>

茨城大学五浦美術文化研究所
茨城県北茨城市大津町五浦727-2
TEL.0293-46-0766
開館時間／9:00～17:00(入場16:30まで)
休館日／月曜日(祝日・振替休日の場合は翌日)、12/29～1/3
入館料／300円(中学生以下無料)
<http://rokkakudo.izura.ibaraki.ac.jp>



横山大観「樹下美人」
(茨城県近代美術館蔵)



六角堂を含む施設は、茨城
大学五浦美術文化研究所
として、一般公開されている
(有料)。敷地内にある天
心邸は長屋門とともに登録
有形文化財となっている

天心と大観

水戸市出身であり、近代日本画の巨匠とうたわれた横山大観（1868～1958）は、天心が創設した東京美術学校に第1期生として入学、ここで出会いから天心を師と仰ぐようになりました。大観は、天心が興した日本美術院にも参加。一時、五浦の地に移り住んでいます。その後、「朦朧体」と呼ばれる線描を抑えた独特な没線彩

画を確立した大観は、日本はもとより海外でも高く評価され、日本画家の重鎮として知られるようになります。

天心の没後、六角堂のある施設と建

物は遺族が引き継いだ後、(財)岡倉天

心偉績顕彰会が管理していましたが、会長であった大観の考えにより茨城大

学へ寄付されています。その後、茨城

大学五浦美術文化研究所として整備、

一般公開され現在に至っています。天

心の思想と志の地であり、その象徴と

いえる五浦の六角堂を含む施設は、大観の手によって守られ、引き継がれたものといえるでしょう。

近くの高台には、天心や大観をはじめとする五浦の作家たちの作品を鑑賞

できる、茨城県天心記念五浦美術館が

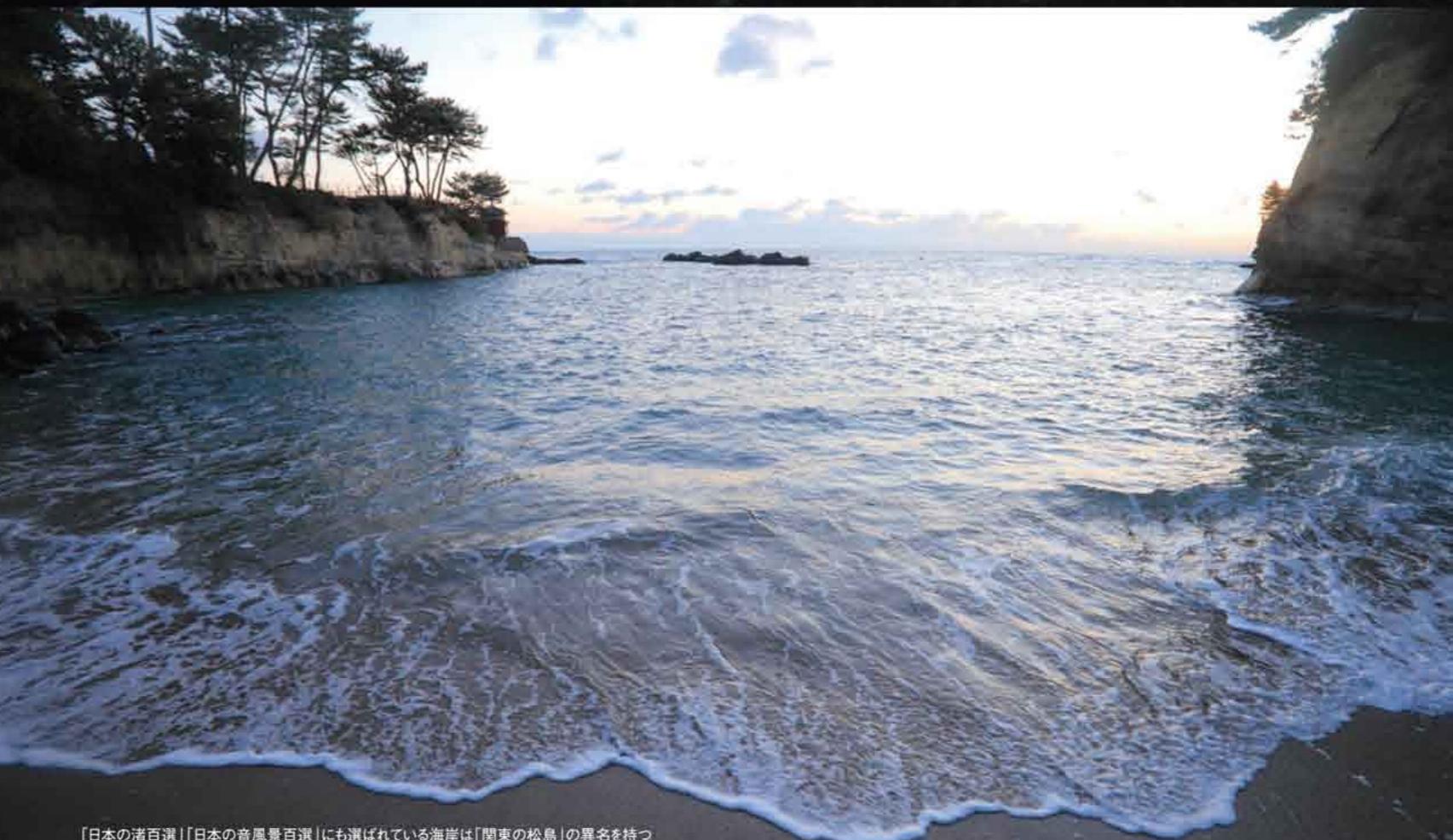
あります。天心が愛し「日本の渚百選」にも選ばれた五浦の自然とともに、

日本近代美術に大きな影響を

与えた二人の世界を見に訪れてはいかがでしょう。



海に突き出した大小の入り江に切り立った断崖が織りなす五浦海岸は、花園・花貫県立自然公園に指定されている



「日本の渚百選」「日本の音風景百選」にも選ばれている海岸は「関東の松島」の異名を持つ

天心の
愛した五浦

筑波山の四季・春

春立つや
見古したれど
筑波山

小林一茶



Photo Gallery

読者のフォトギャラリー

今回のテーマ 私の自慢したい茨城のスポット

「フォトイバラキ」では、読者の皆さんのが撮影した、美しくて楽しくて多くの人に見てほしい、そんないばらきの魅力を伝える写真を募集しています。さらにインターネット上のfacebook「いばらきの魅力を伝えたい」とリンクしながら、読者の皆さんの写真を紹介していきます。



静かな山間の駅

東京都 川前匡人さん

JR水郡線下小川駅。
駅の横を静かに流れる久慈川を散策後に踏切を渡ると、
静かに列車の到着を待つ駅が私を呼んでいたようでした。



青の幻想
水戸市 右島綾香さん

さまざまな魚たちが泳ぐ幻想的で美しい空間です。
アクアワールド大洗水族館の巨大な水槽は見応えがあります。



募集テーマは引き続き「私の自慢したい茨城のスポット」です。

フォトギャラリー応募方法

●フォトイバラキ編集室へメールで送る

茨城県広報広聴課「いばらきの魅力を伝えたいフォトコンテスト」係
koho3@pref.ibaraki.lg.jp
写真を添付して、右記内容のとおりにお送りください。

●フォトイバラキ編集室へプリント写真もしくはデータCDを郵送で送る

以下の宛先まで、右記内容のとおりにお送りください。
〒310-8555 茨城県水戸市笠原町978-6 茨城県広報広聴課「いばらきの魅力を伝えたいフォトコンテスト」係
TEL.029-301-2128

●締め切りは5月31日(金)必着

*「いばキラTV」の動画投稿システムからもご応募いただけます。

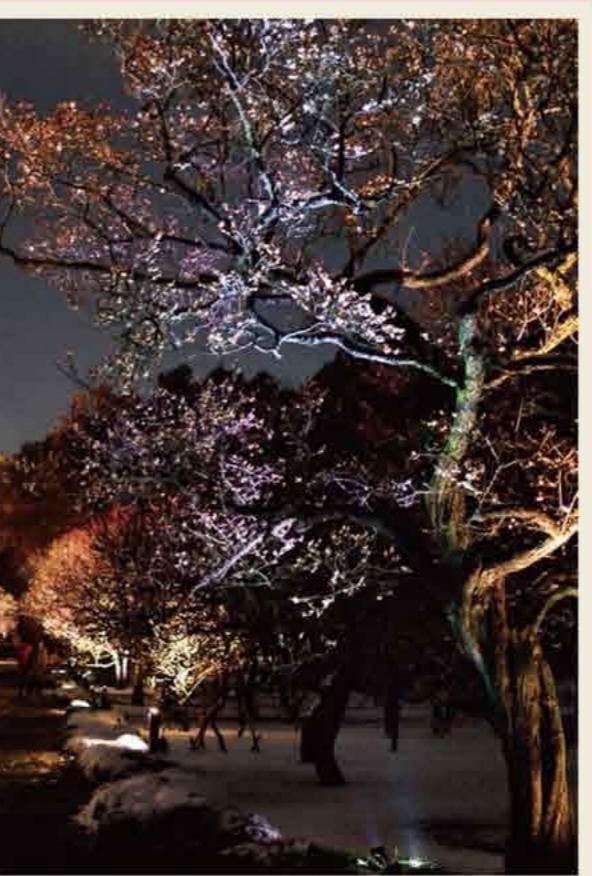
いずれの場合も、氏名・住所・電話番号・
写真タイトルと撮影場所、そして簡単な
コメント(50字以内)を記載してお送りください。写真データとして送る場合は、デ
ータサイズは1MB(1000KB)前後とし、
画像フォーマットはJPEG等画像ファイル
にしてください。誌面では写真とコメント、お名前、お住まいの市町村名を掲
載させていただきます。
写真が掲載された方には、すてきな賞品
をプレゼント。皆さんからの、いばらきの
魅力を伝える写真をお待ちしています。



ひたち海浜公園二景

水戸市 曾我和男さん

ひたち海浜公園みはらしの丘。
春、空とネモフィラの青一色でその迫力に感激。
秋、コキアの燃えるような紅葉にふたたび感動しました。



雪の偕楽園

水戸市 松葉 修さん

偕楽園公園でライトアップ期間に積雪があった幻想的な1枚。



筑波山山頂からの眺め

つくばみらい市 山内恵子さん

筑波山山頂から見た広大な関東平野が広がる風景。



沖宿のハス田

潮来市 平江俊之さん

霞ヶ浦環境科学センター近くの八坂神社より。
重たそうな雲間から一瞬光がハス田にさして、
ハス田の一部が鏡のように輝いた。
あわてでシャッターをきました。



いばらきの歴史再発見 幕末の総合大学弘道館

水戸藩によつてつくられた藩校である弘道館には、先進的な医学教育や医療研究が行われていた医学館がありました。いばらき女性特派員の筒井公江さんが、歴史的にも重要な役割を担つた弘道館を訪ねます。



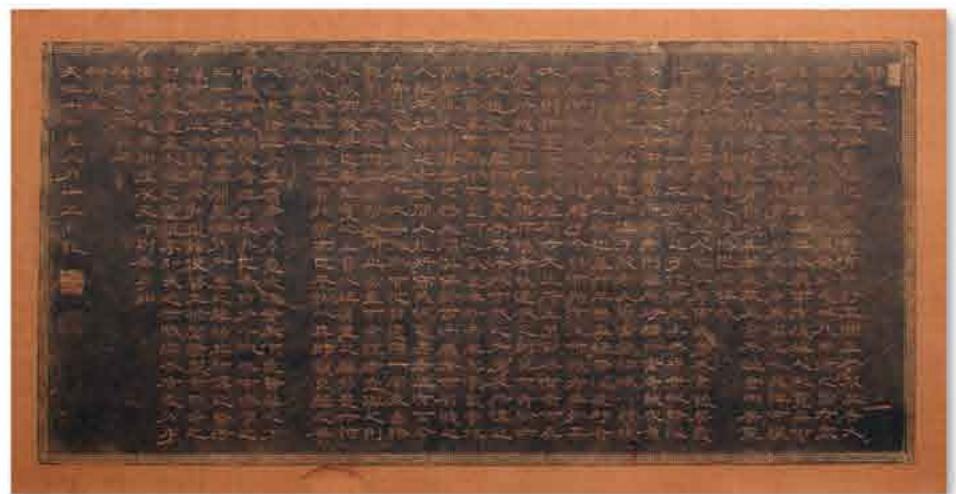
いばらき女性特派員
筒井公江さん



「内科秘録」本間玄調著(茨城県立歴史館蔵)
全14巻からなる実践的な医学書。現代でも高く評価されている。左は天然痘を予防する種痘についてを解説した部分



「蕩瘡病の手当並治方」
(弘道館事務所蔵)
医学館で作成したコレラ予防の冊子。領内に配られていた



「贊天堂記」拓本(弘道館事務所蔵)
医学館の講堂に掲げられていたという贊天堂記。徳川齊昭によって医学館開設の趣旨が記されている

医学館設立
さまざまな役割を担う弘道館

第二代藩主徳川光圀以来、水戸藩では医学の関心も高く各地で郷医の研修機関(郷校)が建てられ、医師の育成に努めてきました。そして、弘道館開校から2年後の天保14(1843)年6月、第九代藩主齐昭は弘道館の構内(現・三の丸市民センター付近)に医学館を開設しました。この医学館は、水戸藩の医学教育、医療研究の中核機関といふものでした。齐昭が自撰自書した「贊天堂記」には、外國に頼らず国内で良薬を作ることの重要性を説くとともに、この医学館から日本のあるべき医学・医療体制を発信したいという壮大な決意が書かれています。齐昭は、医学の分野においても、水戸藩を天下の先駆けとしたいと考えていたのでした。

しかし、この医学館は、水戸藩内部の抗争である明治元年の弘道館の戦いで文館、武館とともに焼失してしまいました。當時、天然痘は死に至る恐ろしい伝染病でした。嘉永3(1850)年、医学館では領内の天然痘の予防に、西洋から伝わった牛痘種痘をいち早く取り入れました。天然痘の予防接種の普及のために、齐昭と医師の本間玄調は我が子に種痘を行い、その安全性を世に示したと伝えられています。

医学館の活動
天然痘の予防接種を行つ

医学館には、本草局、蘭学局、製薬局、調薬局などが置かれ、医学研究や薬草などの医薬精製などが行われていました。また、病気にかかった領民に対しては、薬を与えたり、医学館で治療も施していました。



水戸市三の丸1丁目(三の丸市民センター前)に立つ本間玄調像

近代医学の先駆け
本間玄調・本間道偉

東茨城郡小川の本間道偉の養子となり、代々の家業である医業を継ぎます。玄調が23歳のとき、和歌山の華岡青洲に入門しました。青洲は、世界で初めて全身麻酔の手術に成功した名医として知られています。さらに、玄調は長崎でシーボルトに師事するなど、当時の最先端の医学を学んでいます。帰郷後、華岡青洲から学んだ乳がんの手術に成功し、外科医として名を馳せます。

医学館の教授としても、牛痘種痘の指導や「内科秘録」などの医学書の執筆などを精力的に行い、近代医学の発展に大きく貢献しました。



弘道館正門。藩主の来館時にのみ開門した



現在、修復が進められている正門、至善堂など



弘道館全図
現在の弘道館
創建当時から現存する建造物

藩校敷地比較
水戸藩
35万石・弘道館 5万4000坪
加賀藩
102万石・明倫堂 1万7820坪
長州藩
36万石・明倫館 1万4000千坪

弘道館事務所
水戸市三の丸1-6-29
TEL:029-231-4725

弘道館の建物内(正庁、至善堂等)は、現在復旧中につき入れません。
庭園のみ無料でご覧になれます。

Photo:Takehiko Maekawa